

# イニシャル IQ ラスターペースト新色 L-9(オレンジ)・L-10(トワイライト)の 使用法

大阪府 T's Factory  
歯科技工士  
小出俊介



## はじめに

イニシャルシリーズが発売されて早8年が経ち、筆者も使用しはじめて4年以上経つのだが、これまで色調再現に困ったことは特になかった。パウダーとステイン材を併用し、掛け合せればおおよその歯の色に対応可能であったからである。しかし、これは言い換えれば、掛け合わせをしないと作れない色調があったということでもある。

そのような背景もあり、このたびイニシャルシリーズに3種の仲間が新たに加わることになった。

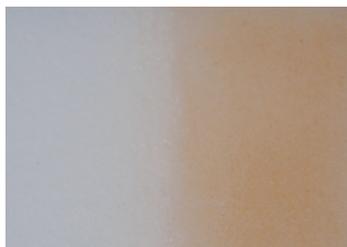
新しいパウダーステインのスペクトラムステイン、オパール効果を強化できる陶材のエナメルオパールブースター、そしてラスターペーストの新色となる「L-9」(オレンジ)、「L-10」(トワイライト)である。

今回はこの中から、ラスターペーストの新色についての解説と、使用方法について述べたい。

新しい材料を取り入れると、新しい表現ができるようになったり、今までよりも表現の幅が広がったりするので、本稿などを参考にして、読者の皆様にも試していただけると幸いに思う。

### L-9 オレンジ

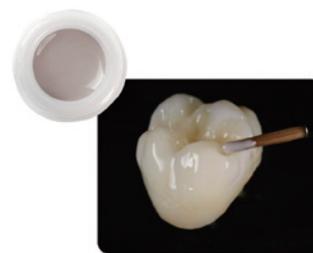
明るいオレンジ色をしており、歯頸部や咬合面の表現に使用する



LiSiプレス MT-B0のフレームに「L-9」を塗布したものの。明るいオレンジ色が再現できるのが分かる。「L-9」を使用することで、明るいベース色を作れるようになった。

### L-10 トワイライト

明るい紫色をしており、切縁付近の透明層の表現に使用する



LiSiプレス MT-B0のフレームに「L-10」を塗布したものの。紫よりグレーにも近く感じられる。今までは「L-6」(ブルー)+「L-7」(ピンク)を混ぜて作っていた色調が再現され、透明層の表現に深みを与えることができるようになった。



図A 新たに加わった2色のラスターペースト。

## ラスターペーストの使用方法

ラスターペーストの特長は、幅広い熱膨張にも対応しており、どの陶材にも使用でき、インターナルステイン、エクスターナルステインどちらにも対応できることにある。

そして、筆者がラスターペーストステインを使用する場面も多岐に渡って

いる。イニシャル LiSiプレス（以下LiSiプレス）やジルコニアのフレームに築盛をおこなう際にフレームモディファイヤーとして色調の補助的役割に使うほか、LiSiプレスをを用いたインレーやオンレー、無垢のプレス、ジルコニアクラウンの色調再現にも使用しており、筆者

のセラミックワークほぼ全てに使用していると言っても過言ではない。

それでは、フレームモディファイヤーに使用する一例や、インレーの症例を追って、詳しいラスターペーストの使用方法を紹介していきたいと思う。

### フレームモディファイヤーとしての使用例

ラスターペーストをフレームモディファイヤーとして使用するとき、筆者は目標シェードよりかなり淡く色をつけるように心がけており、フレームにグラデーションをつける感覚で着色している。歯頸部からオレンジ系の色（[L-A]、[L-B]、[L-9]）をつけ、切縁部

は透明層の色（ブルー、グレー、トワイライト）にすることで、擬似的な透明感を作ることが可能になる。ベースカラーにグラデーションカラーを再現することにより、陶材を単純に築盛してもグラデーションのかかった自然な色調を再現したクラウンを製作でき、深み

のある色調表現が実現する。

本ケースは歯頸部に「[L-9]」を使用し、切縁部に「[L-10]」を使用した。なお、下記のクラウンはその後、FD91、D-A1、BLD-1、CL-F、TN、EOP-Booster、EOP-1を築盛し完成させた。



図B-1 LiSiプレス MT-A1にてフレームを作製。インゴットの色調に透明感があるため、舌側は切端までカバーできる。



図B-2 ラスターペーストにてフレームステインした（焼成後）。歯頸部には「[L-9]」、切縁の透明感は「[L-10]」にて色調を付与した。



図B-3 イニシャル LiSiにて多層築盛（模型上完成）。色調をワックス模型にて確認する。



図B-4 口腔内セットの状態。フレームステインにより、薄い層で天然歯の色調表現が可能になる。

## インレー、オンレー、無垢のクラウンへの使用例

続いて、インレーやオンレー、無垢のクラウンに使用するときの使用法を紹介する。

ラスターペーストを使用する際の注意点として、[L-A]を単体で使用すると茶色が濃く、我々日本人やアジア人の歯の色調に合わせるには色の変更が必要となることが挙げられる。

筆者はベースカラーとして、[L-A]+[L-B]+[L-8]を1:1:1で混ぜたものを使用していた。基本的に歯の色調で同一のものはないので、症例ごとに色を作って対応してきたのだが、新色の[L-9]の登場により、このベースカラーを[L-9]+[L-8]の2色を1:1で混ぜて作れるようになった。

これにより、混ぜる色を減らすことでムラをなくすことが可能になった。さらに、従来の方法より色調を少し明るめることができ、明るい色調のクラウン、インレーにも使えるベースカラーが作れるようになったことも、大きなメリットだと感じている。



図C-1 従来、ベースカラーとして使用していた[L-A]+[L-B]+[L-8]。



図C-2 現在、ベースカラーとして使用している[L-9]+[L-8]。

## 症例 インレーの症例

患者さんは20代女性。筆者は色調のマッチングに配慮するため、インレーでもシェードテイクを行っていただくようにしている。インゴットをシェードガイド状にプレスしたものをを用いてシェードテイク(図1-1)をしてもらうことにより、インゴット選択の悩みが大きく減り、細かな色調合わせに集中できる。

1回目のベースステインでは[L-9]+

[L-8]を1:1で混ぜたものを使用し(図1-2)、透明層の再現に[L-10]を使用した。2回目のエフェクトステインでは[IS-R]+[IS-B]で裂溝を再現し、ホワイティッシュな部分には[L-N]+[L-2]+[L-V]を1:1:1で混ぜたものを使用(図1-3)して、インレーを完成させた。

余談だが、患者さんの中には幼少期にインレー修復の治療を受け、メタル以

外の修復材料の選択肢を知らないまま育ったという方が多くいらっしゃるように感じる。メタルインレーの修復箇所が二次カリエスになって来院された際の再介入において、セラミックインレーをコンサルティングすると、白い歯にしたいという要望がよく寄せられるという。また、こういった傾向は、今後ますます増えていくのではないかと感じている。



図1-1 シェードテイク。⑥のようにグラディアカスタムシェードガイドにインゴットをプレスして製作したタブを張り付けたオリジナルシェードタブを活用している。

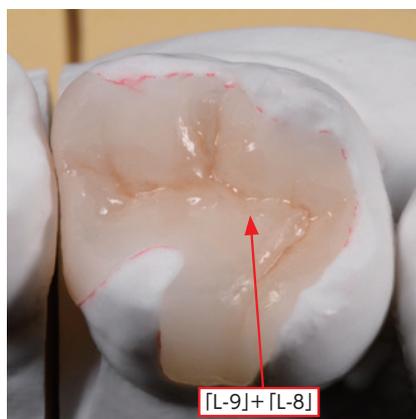


図1-2 1回目のベースステイン。

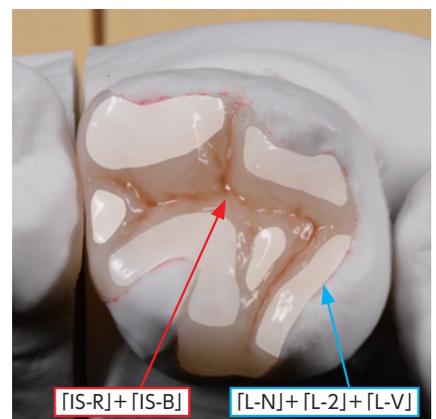


図1-3 2回目のエフェクトステイン。

完成させたセラミックインレーを口腔内で試適して、トライインペーストを使用して色調の確認も行い、色調、コンタクトに問題がなければ、口腔内に接着していく。接着の作業では防湿のためにラバーダムを行っていただいている。ラバーダムの作業は少し大変かもしれないが、確実に接着し、予後のトラブルを起こさないためにも必要だと感じている。接着後、咬合調整を

軽く行い、最終研磨を行っていただき、処置が完成する。

今回筆者は、新しいラスターペーストの「L-9」と「L-10」を紹介したが、新しい色が加わったことにより、色調再現の可能性が広がったことをあらためて実感できた。今まではほかのもので対応してきたことが、新色を用いることで簡単にアプローチできるという場合もあるので、これからもさまざまなケ

ースに使用して、臨床経験を増やしていけるように研鑽したいと思う。

今回症例を提供していただいた、きたはなだますだ歯科の林先生、なかもずデンタルスタジオの清原先生ならびにシェードテイキング等に御協力いただいているスタッフの皆様、ここで深謝させていただきます。



図1-4 トライインペーストを使用した色調確認。



図1-5 接着処置では防湿のためにラバーダムを行っていただく。



図1-6 咬合調整のあと、マイジンガーポリッシャー(リチウムシリケートガラスセラミックス・ジルコニア用)にて最終研磨を行う。



図1-7 セラミックインレーのセットされた口腔内。

症例提供: なかもずデンタルスタジオ 清原正幸先生



小出俊介(こいで しゅんすけ)  
大阪府 T's Factory 歯科技工士

略歴・所属団体◎2003年 滋賀県歯科技工士専門学校専攻科 卒業。2003年 パイオニアデント入社。2007年 大手前歯科診療所(ベルデンタルラボ)入社。2011年 吉田塾5期修了。2011年 nagomi Dental Laboratory入社。2012年 大阪セラミックトレーニングセンター週末コース28期修了。2013年 大阪SJCD テクニシャンコース17期修了。2013年 HAMMY入社。2016年 GC LAB WORK AWARD 歯冠修復部門 優秀賞受賞。2018年 Clinical Enhancement Course 1期修了。2018年 T's Factory 開設